

学校教育ビジョン 【教育目標】 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子の育成」 【目指す児童像】 「かんがえる子 たすけあう子 しんけんによる子 よく聞く子 うんどうする子」 【目指す児童像】 片山津小学校(児童・保護者・教職員・地域)の「今」も「未来」も しあわせにする	○学校運営の方針 みんながつながり合い、「片小大好き！」と思える学校 ～よさや成長を認め合える学校に～ ①安心・安全な学校づくり・学級づくり ②確かな学力の定着 ③豊かな心の育成 ④健やかな体の育成 ⑤特色ある教育活動
--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(学期)	判定結果(年度)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎・基本の力の向上を目指す。	知識・技能をわらうとする国語科、算数科の授業においても、子どもにも委ねる授業を行い、くんぐんタイムや家庭学習などで、AI・リルなど個々の課題に合わせたドリル学習に取り組む。	教務主任	漢字の読み書きや基礎的な計算力には個人差が大きく、思考・判断・表現をわらうとする授業でも、基礎基本の力が不十分なためにわらうを達成できないことも多い。	【成果指標】学年相当の基礎学力が身につけているか。	国語・算数の単元末テストの知識・技能の平均点が、 A 85点以上である B 75点以上である C 65点以上である D 65点未満である	(学期ごとの評価テストの平均点)C、Dの場合は、共通実践事項を見直し、検討する。			
	子どもが主役の個別最適・協働的な学びを取り入れ、「根拠を明確にして考えを表現する力」を育成する授業改善を行う。	単元構想シートを活用し、つけたい方を明確にし学びを展開していく。また、学びを自分の言葉で表現するための手立てを工夫し、児童の実態に応じて単元構想の中に個別最適・協働的な学びを位置付ける。	研究主任	自分の考えを表現することに抵抗が減ってきたが、根拠が不明瞭・長々とした表現、分かりにくい表現になる児童が多い。また、テストや検証問題の類題では、活用力が不十分である。自己の学びを振り返って調整し、主体的に学びに取り組む姿勢を伸ばす必要がある。	【成果指標】単元構想の中に子どもに委ねる時間の設定、および表現力の育成の場を取り入れたか。	算数科を中心に、子どもに委ねる時間の設定・表現力の育成の場の設定を割合により取り入れた教員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(教職員アンケート7月、12月)C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
②生徒指導	生徒指導の4つの視点を含め、個や学級のよさを認め合う集団づくりを行い、自己肯定感を高める。	いじめの未然防止に向け、温かい人間関係の構築に重点を置いた学級経営に努める。学習ルールを徹底させるとともに、グループエンカウンターや児童主体の活動を取り入れ、互いのよさを認め合い、助け合う児童の意識向上を図る。	生徒指導主事	生徒指導の4つの視点を活かした授業づくりや構成的グループエンカウンターを活用等に取り組んできたことで、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができるようになった。しかし、友達が嫌がることをしたり言ったりする児童も一部見られる。	【成果指標】児童の自己肯定感が高まったか。	「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(児童アンケート7月、12月)C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
③キャリア教育・進路指導	前向きに目標に向かい、友達と協力する児童の主体的な活動を重視する。	クラス会議や児童会活動、学校行事を通して、目標設定や成長をふりかえる場、認め合う場を設定する。また、キャリアパスポートで自己評価していく取組を計画的に推進する。	キャリア教育	キャリアパスポートの活用等を通して、目標を設定し、その達成に向けて粘り強く努力する児童が増えている。しかし、目標を立てることができず、意識を継続して取り組むことが難しい児童もいる。	【成果指標】学校生活で自分自身をふり返り、成長を実感できたか。	「目標を立てて努力できた」と答えた児童の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(児童アンケート7月、12月)C、Dの場合は、取り組みを再検討する。			
④保健管理	基本的な生活習慣を確立するための指導の充実。特に睡眠に関する指導を重点的に行う。	自分の生活習慣の振り返りと睡眠の重要性を再認識するために、ほげんたよりでの啓発、児童委員会の発表、学校保健委員会との関連した取り組みなどで年間を通して継続した取組を続ける。	保健主事	前年度の児童アンケートでは、単発的な取り組みが多かったため、高時生活習慣の乱れが見られる児童への指導が課題であった。家庭と連携し、継続的に睡眠に関する指導を進めていくことが必要である。	【成果指標】自分の生活を見直し、よりよしくしようとする姿が見られるか。	「1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上寝ている」と答えた児童の割合が、 A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	(児童アンケート7月、12月)C、Dの場合は、取り組みを再検討する。			
⑤安全管理	児童の危機回避力の向上を図る。	実際の想定した避難訓練や児童への適切な安全指導を実施し、児童の危機回避能力や対応力を高める。	安全点検担当教頭	児童の中には、安全やけがの防止に対する意識が低い場合、けがやトラブルにつながる場合があった。児童が危険を予測し、回避力や対応力を高める必要がある。	【成果指標】児童の危機回避能力を向上させることができたか。	児童が「安全に気を付けて行動できた」と回答した割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(児童・教職員アンケート7月、12月)C・Dの場合、改善策を検討する。			
⑥特別支援教育	児童の実態を共通理解し、児童のニーズに応じた適切な指導や支援を行う体制を整える。	特別な教育的支援が必要な児童や困り感のある児童の実態を共通理解する。コーディネーターや生徒指導担当が中心となり、校内支援員や、外部の特別支援アドバイザーと連携を図り、個々の特性にあった支援を組織的に行う。	特別支援コーディネーター	全校児童の困り感を定期的に共通理解し、全教職員で連携しながら支援を行っている。各学年に支援を必要とする児童が在籍するため、効果的な支援をどのように行っていくのかを考えた組織体制を整える必要がある。	【努力指標】児童の困り感を把握し、組織的な支援を体制を工夫したか。	児童の実態を共通理解し、組織的な支援体制が工夫できたかと答えた職員の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	(教職員アンケート7月、12月)C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
⑦組織運営・業務改善	校務分掌における各職員の役割を明確にし、組織的かつ主体的に活気ある学校運営をめざす。	主任を中心に各部が連携を密にし、役割と分担を見える化し、効率的・組織的に全職員が見直しをもって、学校運営に参画できるようにする。	教頭	外部人材や専門スタッフと協力し、業務の効率化を図っている。定期的に分掌が多い場合には、一人一人が自分の経験や得意分野を生かし、お互いにサポートしながら校務の効率化を図る必要がある。	【成果指標】役割の明確化と効率化を図り、組織的な学校運営を進められたか。	自身の役割が明確で、見直しをもって業務を行い、達成感があると答えた職員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(教職員アンケート7月、12月)C、Dの場合、運営委員会で取り組み体制を再検討する。			
⑧研修	OJTや若プロを中心に幅広い内容の研修を充実させ、各教員が自分の実践で生かせるようにする。	各教科の指導法や教員のニーズに合わせた内容に関する研修を年間を通して推進し、片小LOVE研、算数科を中心とした授業実践、若手早期育成プログラムやOJT・授業交流等の場を計画的に設定する。	若プロ担当	研修の担当者も、参加者も、意欲的に準備・参加している。職員のニーズをタムリに吸い上げ、実践につながるように、日々の授業や課題について自覚し、悩みを話しやすい職員集団づくりを意識していく必要がある。	【努力指標】研修会・授業交流等で学んだことを生かし、実践につなげることができたか。	「研修会・授業交流等で学んだことを生かし、実践につなげることができた。」と答えた職員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(教職員アンケート7月、12月)C、Dの場合、研修会・授業交流の持ち方や内容、職員集団づくりを検討する。			
⑨保護者、地域との連携	保護者や地域に学校の正確な情報やニーズに応じた情報を積極的に発信する。	学校の教育活動を「学校、学年、学級単位」等を通じ、幅広く知らせる。特に、学校HPや共通の積極的な活用を図る。	教頭	学年、学級学校便りやホームページを活用し、積極的に情報を発信しているが、保護者への伝わり方は十分とはいえない。学校行事の際には常にホームページの更新を行っているため、共通の場を通じて保護者へ発信していく。	【満足度指標】保護者に学校の必要な情報や教育活動の様子がよく伝わっているか。	学校の情報発信について満足している保護者の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(保護者アンケート7月、12月)C、Dの場合、改善策を検討する。			
⑩教育環境整備	児童が学習に取り組むために、教室や特別教室等の教育環境を整える。	授業の教材教員や児童の学習用具などの整理整頓に努め、学習に集中しやすい環境を整える。	教頭	教室スペースや棚が限られている中で、児童の学習用具がコンパクトに収納され、学習の際に出し入れがしやすい工夫をしなければならない。また、特別教室などの共有スペースについては、教員に開けず職員が安全に整理して片づけられているかを定期的に確認する必要がある。	【努力指標】教室や特別教室、職員室の整理整頓を心掛けることができたか。	教室や特別教室、職員室の整理整頓を心掛けることができたか。 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	(教職員アンケート7月、12月)C・Dの場合、職員作業を行う。			

学校関係者評価	
---------	--